

水生生物調査に参加するみなさんへ 水辺で安全に調査をするために

調査に当たっては、危険防止のため次の注意事項に十分留意しましょう。

また、津波の危険がある地域において、海浜に近い河口・下流で調査する場合は、津波に対しても十分に備えるようにしてください。

(1) 調査は数名のグループで。

1人だけ、子供だけでの調査は大変危険。必ず**大人の指導者**を伴った**グループ**で調査しましょう。指導者は、安全な調査エリアを事前に確認して参加者に指示するとともに、誤って調査エリアを超えてしまうことのないよう、必要な監視を行えるだけの**大人の人数を確保**して下さい。

(2) 河川の流力は思った以上に速い。

河川の流力は思った以上に速いことがあります、また、日によって状況が異なるため、以下の方法などにより**事前に流れの状況を確認**してから川に入って下さい。

- ①当日の天気予報(携帯電話でも調べられます。)や、上流域のダムの放流警報などを調べる。
- ②増水の可能性があるときは調査を中止する。
- ③現場では目視確認を行い、まず指導者が川に入って状況を確認する。
- ④特に初めての調査地点の場合には事前調査を十分に行う。

(3) 調査は、川底が見えるところで。

水深は 30 cm 位まで(膝まで)のところまでとし、これよりも深いところには入らないようにしましょう。

(4) ライフジャケットを着用する。

川での水難事故のほとんどはライフジャケットさえ着ていれば防げた可能性があります。事故に遭わないように、**ライフジャケットを着用**するようにしましょう。

(5) むれてもよいクツをはく。

川底に空きカンやガラスビンなどが落ちていて、川の中にはだしで入るのが危険な場所もあります。**むれてもよいクツをはいて調査**しましょう。なお、**子供用の長ぐつ**は中に水が入ると歩きにくくなり、ぬげてしまうこともあるので、**浅い川以外は不適**です。

(6) 川底の変化に気をつける。

川底が急に深くなったり、やわらかい泥で足を取られたりしますので気を付けてください。

(7) 足元と手元に注意。

川底が、コケなどで大変すべりやすくなっている場所もあります。ころんだり、すべったりしてケガをしないように十分に注意しましょう。また、川の中に入るときには、**壊れやすいものや先のとがったものは身につけない**ようにしましょう。ころんだ時に体をきずつけるおそれがあります。

(8) きたない川での注意。

大変きたないと思われる場所で調査する場合には、ビニール手袋やゴム手袋などをはめて調査しましょう。

(9) 万一に備えた準備と心構え。

万一ケガをしたときのため、**ファーストエイドキットを携帯**しましょう。指導者の方は、必要に応じて**傷害保険に加入**したり、**近くの病院の場所や連絡方法について事前に確認**するなどの備えをお願いします。

(10) その他

別添の環境省通知(抜粋)「水難事故防止 ライジャケ・オン！」も御活用ください。